

誌上行学講習会

高佐日焯上人

「次には人間心の餓鬼心であります。これは物欲心のことであります。物を欲しがると。物を惜しむ心。それもただ何となく物を欲しがること。例えば、家を建てる時上棟式をやったり餅を投げます。投げる方は喜びを餅にくくし、家がながもちするのように願ってまくのですが、通りがかりの人がこれを見ると夢中になってこれをひろわう。ひろってみたってどうということはないでしょうが、ただ何となく拾ってみたいという欲望をおこすのです。節分の豆まきの時などはもっとはっきりしています。カサを逆さに開いてそれに入れようとすると。物欲心のあらわれであります。

又人に何かを依頼する場合、必ず一寸した菓子折か何かを持って行く。一体誰がそういう規則を決めたのか。それは誰がきめたのもなく、人間の物欲心を満足する為に自然に人間が知った常識であります。受け取った方もたしかに何かしら気持ちやほらぐ、話しもはずんで来る。不思議なことですが現実の姿であります。広告マッパチなどもそのよい例でしょう。普通の広告ですとすぐに捨ててしまいがちですが、マッパチだとふと見てポケットに入れる。これは利用価値があるからでありませう。いたる所自分の店の名、商売を示したところであつちが使われています。すべて物欲心の示すところでありませう。次の人間心の畜生心は愛憎心であります。これとても深い意味はない。しかし人間にはたえず働らいています。一寸したことで好きになつたり嫌いになつたり、「どうもあいつは虫が好かねえ」等という言葉をよく聞きます。口のきき方、顔つき、態度で好悪の感じをも

「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」

「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」
「一目見たとき好きになつたのよ」

以下次号